

# 高屋誠吾 学位論文審査要旨

主査 村脇義和  
副主査 池口正英  
同 辻谷俊一

## 主論文

Upregulation of immune checkpoint molecules, PD-1 and LAG-3, on CD4+ and CD8+ T cells after gastric cancer surgery

(胃癌術後患者においてCD4+ならびにCD8+T細胞における免疫チェックポイント分子であるPD-1ならびにLAG-3の発現は上昇している)

(著者：高屋誠吾、齊藤博昭、池口正英)

平成27年 Yonago Acta medica 掲載予定

## 参考論文

1. FNAで診断し得た高齢男性の膵尾部solid-pseudopapillary neoplasmの1例

(著者：高屋誠吾、花木武彦、渡邊浄司、徳安成郎、坂本照尚、奈賀卓司、若月俊郎、池口正英)

平成25年 消化器外科 36巻 1919頁～1925頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌術後の細胞性免疫能低下の機序として、リンパ球に発現する免疫チェックポイント分子であるPD-1 (programmed cell death 1)、LAG-3(lymphocyte activation gene 3)の発現を検討した。その結果、胃癌術後に早期よりリンパ球数の減少と共に、CD4+T細胞ならびにCD8+T細胞上のPD-1、LAG-3の発現が上昇し、細胞性免疫抑制を導いている可能性が示された。術後に細胞性免疫能が低下することは、術後感染症の危険が高まるほか、術後再発の危険性が高くなる可能性がある。本論文の内容は胃癌術後の患者管理の面で有用であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。